

老婆心ながら

～校長からの一言～

「食べ物の好き嫌い」と「人の好き嫌い」の共通点

最近では、食物アレルギーを持つ子が増えて、一概には言い切れない部分も多くなりましたが、多くの子ども達を見てきた私の経験では、「食べ物の好き嫌い」と「人の好き嫌い」には、ある程度の類似点があるように感じています。もう少し具体的に言うのであれば、それぞれの表現の仕方に子どもの性格（特性）が表れるため類似していると感じるのだと思います。

仮に、自分が友達の家などに遊びに行って、食事をいただくことになったとします。そして出していただいた料理が自分の嫌い（苦手）な料理であったと考えてみてください。その時、皆さんはどのように対処するのでしょうか。おそらく、「嫌いだ」「苦手だ」とはっきり言ってしまう人は少ないでしょうが、口には出さないまでも、手を付けない人はある程度いることでしょう。また、申し訳なさそうに少しだけ食べる人、嫌いな食材だけを避けて食べられる部分だけを食べる人、出してくださった人に気を遣い我慢して食べてしまう人など、いろいろな人がいると思います。その表現の仕方が、子ども達を見てみると、「人の好き嫌い」の表現の仕方と類似していると感じているということなのです。

すでにお分かりの方もいると思いますが、当然、学級の仲間に対し「嫌いだ」と口に出してしまったのでは仲間と良好な関係を築けるはずはありませんし、また仲間に気を遣い我慢しながらいつもその仲間と行動を共にしようとすれば、ストレスをためるばかりで自分自身にとって良いことはありません。もちろん「好き嫌い」がないことが一番良いことなのですが、嫌い（苦手）な食べ物とどのように付き合っていくのか。そこの所にアドバイスをしてあげることが、間接的ではありますが嫌い（苦手）な子と上手に付き合っていくためのアドバイスにもなり得るのかもしれません。

保護者にとって、友達との付き合い方は目に見えない部分かもしれませんが、食事は毎日見られる部分です。食事の様子を見て我が子のタイプを知り、適切なアドバイスをお願いします。